計量経済 II:中間試験

村澤 康友

2016年11月15日

注意: 3 問とも解答すること. 結果より思考過程を重視するので、途中計算等も必ず書くこと(部分点は大いに与えるが、結果のみの解答は 0 点とする).

- 1. (20点) 以下の用語の定義を式または言葉で書きなさい (各 20 字程度).
 - (a) 統計的推測
 - (b) 最尤法
 - (c) (k 次の) 標本積率
 - (d) 漸近有効推定量
- 2. (30 点) N (μ, σ^2) から抽出した大きさ n の無作為標本の標本分散を s^2 とする. μ は未知とする.
 - (a) $E(s^2) = \sigma^2$ となることを示しなさい.
 - (b) s^2 はどのような分布をもつか? (証明不要)
 - (c) $\sigma^2=1$ とする. n=17 のとき $s^2>2$ の確率を χ^2 分布表を利用して求めなさい.
- 3. (50 点)ある将棋の対局の中終盤 50 手の将棋ソフトとの一致率は X 棋士が 88% (22/25), Y 棋士が 60% (15/25) であった.両棋士の(無限仮説母集団における)真の一致率を p_X, p_Y ,この対局の中終 盤各 25 手における一致率(=標本平均)を \hat{p}_X, \hat{p}_Y とする.各対局者と将棋ソフトの指し手の一致/不一致は独立かつ同一なベルヌーイ試行であり,また互いの指し手についても独立と仮定する.
 - (a) 2項母集団 $Bin(1, p_X)$, $Bin(1, p_Y)$ の平均と分散を求めなさい.
 - (b) \hat{p}_X , \hat{p}_Y の漸近分布を求めなさい.
 - (c) $\hat{p}_X \hat{p}_Y$ の漸近分布を求めなさい.
 - (d) $p_X p_Y$ の 99% 信頼区間を近似的に求めなさい.
 - (e) $n_X=n_Y=25$ として 99% 信頼区間を近似的に計算し、それが $p_X-p_Y=0$ を含むかどうか調べなさい。

※数値例はフィクションです。また分析の目的は両棋士の棋風の差異の検証であり、本データのみで不正行為の有無の検証は不可能です。

解答例

- 1. 統計学の基本用語
 - (a) 一部の観察から全体について推測すること.
 - (b) (対数) 尤度関数を最大にする解を母数の推定値とする手法.
 - (c) $\hat{\mu}_k := (1/n) \sum_{i=1}^n X_i^k$.
 - (d) 漸近正規推定量の中で漸近分散が最小となる推定量.
 - ●「漸近分散が最小」のみは2点.
- 2. 標本分散の標本分布
 - (a) 標本分散は

$$s^2 := \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^{n} (X_i - \bar{X})^2$$

次式を示せばよい.

$$E\left(\sum_{i=1}^{n} (X_i - \bar{X})^2\right) = (n-1)\sigma^2$$

ここで

$$\sum_{i=1}^{n} (X_i - \bar{X})^2 = \sum_{i=1}^{n} [(X_i - \mu) - (\bar{X} - \mu)]^2$$

$$= \sum_{i=1}^{n} [(X_i - \mu)^2 - 2(X_i - \mu)(\bar{X} - \mu) + (\bar{X} - \mu)^2]$$

$$= \sum_{i=1}^{n} (X_i - \mu)^2 - 2\sum_{i=1}^{n} (X_i - \mu)(\bar{X} - \mu) + n(\bar{X} - \mu)^2$$

$$= \sum_{i=1}^{n} (X_i - \mu)^2 - n(\bar{X} - \mu)^2$$

期待値をとると

$$E\left(\sum_{i=1}^{n} (X_i - \bar{X})^2\right) = \sum_{i=1}^{n} E\left((X_i - \mu)^2\right) - n E\left((\bar{X} - \mu)^2\right)$$
$$= \sum_{i=1}^{n} var(X_i) - n var(\bar{X})$$
$$= n\sigma^2 - n\frac{\sigma^2}{n}$$
$$= (n-1)\sigma^2$$

● 標本分散の定義で5点.

(b) $\frac{(n-1)s^2}{\sigma^2} \sim \chi^2(n-1)$

• $\chi^2(n-1)$ のみは $s^2 \sim \chi^2(n-1)$ の意味に取れるので 0 点.

(c)

$$\Pr\left[s^2 > 2\right] = \Pr\left[\frac{(n-1)s^2}{\sigma^2} > \frac{2(n-1)}{\sigma^2}\right]$$
$$= \Pr\left[\chi^2(16) > 32\right]$$
$$\approx .01$$

- $\chi^2(16)$ で 5 点.
- 3. 母比率の差の信頼区間
 - (a) $Bin(1, p_X)$ の平均は

$$1 \cdot p_X + 0 \cdot (1 - p_X) = p_X$$

分散は

$$(1 - p_X)^2 \cdot p_X + (0 - p_X)^2 \cdot (1 - p_X) = (1 - p_X)^2 p_X + p_X^2 (1 - p_X)$$
$$= p_X (1 - p_X)$$

 $Bin(1, p_Y)$ についても同様.

● 平均で5点,分散で5点.

(b)

$$\hat{p}_X \stackrel{a}{\sim} \text{N}\left(p_X, \frac{p_X(1-p_X)}{n_X}\right)$$

$$\hat{p}_Y \stackrel{a}{\sim} \text{N}\left(p_Y, \frac{p_Y(1-p_Y)}{n_Y}\right)$$

• 前問の解答と整合的なら OK.

(c) $\hat{p}_X - \hat{p}_Y \stackrel{a}{\sim} N\left(p_X - p_Y, \frac{p_X(1 - p_X)}{n_Y} + \frac{p_Y(1 - p_Y)}{n_Y}\right)$

• 前問の解答と整合的なら OK.

(d) $\frac{\hat{p}_X - \hat{p}_Y - (p_X - p_Y)}{\sqrt{p_X(1 - p_X)/n_X + p_Y(1 - p_Y)/n_Y}} \stackrel{a}{\sim} N(0, 1)$

または

$$\frac{\hat{p}_X - \hat{p}_Y - (p_X - p_Y)}{\sqrt{\hat{p}_X(1 - \hat{p}_X)/n_X + \hat{p}_Y(1 - \hat{p}_Y)/n_Y}} \stackrel{a}{\sim} N(0, 1)$$

したがって

$$\Pr\left[-2.58 \le \frac{\hat{p}_X - \hat{p}_Y - (p_X - p_Y)}{\sqrt{\hat{p}_X(1 - \hat{p}_X)/n_X + \hat{p}_Y(1 - \hat{p}_Y)/n_Y}} \le 2.58\right] \approx .99$$

99% 信頼区間の上限・下限は

$$\hat{p}_X - \hat{p}_Y \pm 2.58 \sqrt{\frac{\hat{p}_X(1-\hat{p}_X)}{n_X} + \frac{\hat{p}_Y(1-\hat{p}_Y)}{n_Y}}$$

● 前問の解答と整合的なら OK.

(e)

$$\frac{\hat{p}_X(1-\hat{p}_X)}{n_X} = \frac{.88(1-.88)}{25}$$

$$= \frac{.1056}{25}$$

$$\frac{\hat{p}_Y(1-\hat{p}_Y)}{n_Y} = \frac{.6(1-.4)}{25}$$

$$= \frac{.24}{25}$$

したがって

$$\frac{\hat{p}_X(1-\hat{p}_X)}{n_X} + \frac{\hat{p}_Y(1-\hat{p}_Y)}{n_Y} = \frac{.3456}{25}$$

すなわち

$$\sqrt{\frac{\hat{p}_X(1-\hat{p}_X)}{n_X} + \frac{\hat{p}_Y(1-\hat{p}_Y)}{n_Y}} \approx \frac{.5879}{5}$$
= .1176

99% 信頼区間は

$$[.28 - 2.58 \cdot .1176, .28 + 2.58 \cdot .1176] \approx [-.023, .583]$$

したがって0を含む.